

## 「第9回スポーツ環境会議」議事録

平成29年10月23日（月）14:30～16:30

新宿区役所6階第4委員会室

### 1 出席者

1	今泉 清隆（区体育協会）	11	関口 美緒（公募委員）
2	金子 和子（区スポーツ推進委員協議会）	12	藤原 千里（公募委員）
3	小菅 知三（区レクリエーション協会）	12	中山 順子（生涯学習スポーツ課長）
4	山田 和男（区町会連合会）	13	佐藤 陽一（新宿未来創造財団等担当課長）
5	太田原 武（区高齢者クラブ連合会）	14	森 厚志（障害者福祉課 事業指導係長）
6	徳堂 泰作（区障害者団体連絡協議会）	15	山本 誠一（地域包括ケア推進課長）
7	大塚 フジエ（区青少年育成委員会）	16	関原 陽子（子ども家庭課長）
8	山本 芳裕（区小学校PTA連合会）	17	中川 誠一（健康政策課長）
9	鈴木 和成（区中学校PTA協議会）	19	天井 誠（みどり公園課 公園計画係長）
10	小宮 高之（スポーツ関連事業者）	20	齊藤 正之（教育調整課長）

欠席者 2名

間野 義之（学識経験者）

小柳 俊彦（新宿未来創造財団事務局長）

机上配付資料

資料1 スポーツ環境会議設置要綱

資料2 スポーツ環境会議委員名簿

資料3 関口委員からの情報提供 「メキシコのスポーツ（エクササイズ）事情報告」

資料4 藤原委員からの情報提供 「CYBER BOCCIA」

資料5 しんじゅくシティウォーク2017

健康づくりキャラクター「しんじゅく健康フレンズ」について

食べる幸せをいつまでも ～“口から食べること”をサポートします～

資料6 障がい者スポーツ等体験イベントについて

当日配布資料

・新宿レクリエーションだより

・新宿スポセン祭り2017

### 2 事務局

生涯学習スポーツ課

### 3 会議内容

#### (1) 開会

#### (2) 生涯学習スポーツ課長あいさつ

区の組織改正後、生涯学習スポーツ課の名前になり2年目となった。当課はスポーツ環境整備方針を推進していくことが担当であるが、区民のスポーツ機会の拡大だけでなく健康寿命の延伸やスポーツコミュニティの調整等を図り区民のスポーツ実施率を向上させるなど、今後も継続して総合的に取り組んでいきたい。

この会議ではスポーツ環境の現状確認を行うとともに、区民ニーズにも対応できる体制づくりを整備するために開催しており、今回で9回目となる。本日は第8回会議のあと、皆様の取り組み内容、各分野における活動の連携についてご意見を伺いたいと思う。

3月にスポーツ庁が作成した第2期スポーツ基本計画では2021年度までにスポーツ実施率を65%に引き上げる目標が挙げられている。この非常に高い目標を見据えながら、競技スポーツ人口だけではなく、体操やウォーキングなど日常的な運動習慣を普及することで、スポーツ人口の裾野を広げたいと考えている。

そのためにもスポーツ施策と健康推進施策の連携、事業間の関係を深め、スポーツコミュニティの実現を目指して力を尽くしていきたいと考えている。皆様にはより一層のご協力をお願いしたい。

#### (3) 座長の選出

金子委員が座長に選出された。

#### (4) 情報交換・意見交換（要旨）

##### ア 各団体・委員からの報告

##### ・区体育協会

全体的に難しいのは健康についてだが、体協は勝たなければいけないという使命がある。都民大会では入賞はしているが、以前と比べて順位が落ちている。成績が低迷している事情として、参加者が年々高齢化し、若者の参加が少ないのが原因ではないかと思っている。人口が多い区は強いが、新宿区も勝つ団体となるよう、体協の体質を変えながら、生涯スポーツとしての推進を頑張っている。また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、協会全体で頑張っている。

##### ・レクリエーション協会

協会ではスポーツ実施人口の裾野を広げるために、勝ち負けを競うスポーツよりも、レクリエーションを取り入れたスポーツ（スポレク）を勧めている。ファミリースポーツ促進事業など、国の事業を東京都の協会が受け、東京都より委託された初めての事業として、幼児、低学年のスポーツの機会を創設し、保護者を取り込む事業がある。スポーツの裾野を広げるため、健常者だけでなく、障害者とともにスポーツ機会を増やす活動も進めている。行政にも全面的に協力してもらい、各委員にもご協力いただきながら進めていきたいと思うので、ご支援をお願いしたい。

#### ・新宿区町会連合会

地区町連では、コミュニティスポーツ大会への協力のほか、新宿シティハーフマラソンにも手伝いなどで参加している。地区の人達のスポーツをする機会を増やすのは難しいが、ボランティアとして参加をしていると聞いている。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催予定もあり、住民の方がオリンピックに携わっていききたいという雰囲気は感じ取れるため、ボランティア募集があったら地区でも手をあげるのではと思う。スポーツ全般では、選手の参加依頼など難しい面もあるが、地区対抗の運動会も以前のように開催したいと考えている。

#### ・高齢者クラブ連合会

ケースワークとして、輪投げ、グランドゴルフ、フォークダンス、レクダンス等を行っている。上層団体に東京都があり、輪投げの規格が区で導入している輪投げと異なるため、道具を揃える金額も高額になり、悩みの種でもある。区でもバックアップをお願いしたい。

#### ・障害者団体連絡協議会

コズミックスポーツセンターでの障害者スポーツデーの協力参加を行っている。今後は当事者がスポーツに参加できる取組ができればと思う。

#### ・青少年育成委員会

10地区で色々な活動があり、サッカー大会、野球大会、ハイキング、スキーツアー等を行っている。コミュニティスポーツ大会については、全地区が関わっており、育成委員会、PTA、スポーツ推進委員等に入ってもらい、横のつながりを大事にして大会を進めている。これはスポーツに限らず、防災の点についても重要であるため、地域で顔が見える関係を作っていくことを大切にしている。

#### ・小学校PTA連合会

毎年3つの大きなスポーツのイベントがある。10月のソフトボール教室、11月のバレーボール大会、1月に卓球大会がある。1月の新宿シティハーフマラソンに向けて、学校が沿道で応援する運動が広がっている。近日中に、どの場所で応援するかを調整する予定である。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会もあるため、他の区に先立ち、新宿区の子どもたちが、参加だけでなく、見ることも、応援することに力をいれていきたいと思っている。

各小学校単位でも依頼をもらっているが、マネジメントしている古賀淳也が帰国して、3校で水泳教室を開催した。また、岡野雅行の走り方教室、元ヤクルトスワローズ選手によるソフトボール投げ方教室など行い、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて新宿区内の子どもたちの記録が伸びるよう展開している。

また、キャンプ地については、204の国、33の競技があるため、近隣の小学校等のグラウンド、体育館、プールの使用について、新宿区にも要請があると思う。そのような情報を伝えていきながら、地域とどう活用しているかを作っていければと思う。

#### ・中学校PTA協議会

中学生は地域の方と関わるのが難しい年頃である。コミュニティスポーツ大会へ誘うが、1人

しか参加しないこともある。イベントチラシを配布しても、保護者まで周知されないなどがあるため、対応を検討している。部活動では顧問の先生の都合や入る部活の種類に制限があるため、学校の部活ではなく、クラブチームにはいる子どもが多い。今後、中学校としても、スポーツ環境の整備について、ハード面とソフト面を考えていきたいと思う。

- ・スポーツ関連事業者代表

スポーツセンターの使命としては、利用者数を伸ばし、施設を有効活用してスポーツ振興をすることにある。11月11日には指定管理者として初めて開催するスポセンまつりがあるため、日頃スポーツをしない人にも、関心をもってもらうよう実施し、今後もスポーツ振興に努めていきたい。

- ・藤原委員

パラスポーツが広く開催されているおかげで、子どもたちがスポーツをする機会、場所が増えてきている。ただ、パラリンピック開催後もこの流れが終わらないようにすることも大切と思う。そのためにもスポーツをしない人を取り入れて、引き続きスポーツ人口が増えていくように考えていきたいと思う。

例えばサイバースポーツは、エンターテインメント性が強く、音、光、映像でスポーツを体感でき、サイバーボッチャなどは、通常の競技とルールは同じだが、コート映像や審判の採点のIT化など、ゲーム感覚でパラスポーツを楽しむことができる。その他にバーチャル感覚で体感できるサイバースポーツも用意されているため、イベントや飲食店に設置することで、パラスポーツに興味がなかった人でも体験できることも必要と思う。

- ・スポーツ推進委員協議会

日々の活動として、区内10地区で実施しているスポーツ交流会の開催やイベント、レガスマツリなどで行う体力測定の実施などがある。体力測定では自分の体力を知ってもらい、体力が落ちないように意識してもらうようにしている。その他ではスポレク、地区の運動会などにも参加し、スポーツ全般のよろず相談窓口としても協力している。

## イ 各課での取り組みについて

- ・生涯学習スポーツ課

当課では、パラスポーツに力をいれており、ボッチャ、ゴールボール指導員養成講座などを実施している。また、パラスポーツ振興のため、福祉部の若手で構成されたPTが発足され、スポーツ推進委員に教えてもらいながら、繋がりを広げている。また、成年・高齢者の水泳イベントの際には健康部の健康増進パネルを展示するなど、健康とスポーツを一緒に啓発ができるように工夫をしている。今後も東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、行政と地域が連携を深められるよう事業を組み立てていきたいと考えている。

- ・新宿未来創造財団

来年1月28日開催予定の第16回新宿シティハーフマラソンでは、地域の皆様には、改めてご協力をお願いしたい。財団では東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けて、障害の有

無、年齢、国籍を超えて、誰もがスポーツを楽しめる機会を作っていくことに力を入れていきたい。

その他連絡だが、10月中旬より工事のため、コズミックスポーツセンターのプールが使用不可となり、半分ロビーを閉鎖している。現在出入り口は教育センター側のみとなるためご注意いただければと思う。

#### ・障害者福祉課

障害者の方がスポーツへ参加する機会を積極的に支援するため、障害者福祉活動助成の基金を持っている。スポーツ関係の助成の例として、昨年度、スポーツ吹き矢、ユニバーサル駅伝大会などに助成した。講師謝礼、移動に係る交通費が助成対象になっている。また、障害者の方の日常的コミュニケーション（筆談や手話）派遣の費用の支援も行っている。

障害者福祉センターでは、各団体と連携し体験会も行っているため、引き続き、各団体の連携のもと様々な支援を行っていきたい。

#### ・地域包括ケア推進課

当課では健康寿命の延伸、介護予防を目指し様々な事業を展開している。特に新宿いきいき体操では、サポーターの皆様が普及活動を行っている。10月18、19日新宿文化センターで行われた敬老会においても、有志の方が式典後に体操を披露してくれた。会場の方も着席しながら体操を行うことができ、随分と普及したと思っている。

また、11月8・9日のいきいきハイキングでは、280名の定員だったが、370名の応募があった。

#### ・子ども家庭課

当部では、保育園や子ども園においてスポーツというより「あそび」の中で体を動かすことが体験できないかを考えている。また、児童館、学童クラブでは外で遊ぶ機会などに制限があるため、館内でできることを地域の方のご支援をいただいている。特色のあるスポーツ事業、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会関係事業等については特にはないが、周囲の気運を感じながら子どもたちの成長を見守っている。

#### ・健康政策課

昨年実施した区民の健康づくりに関する調査において把握した、区民の実態に基づき、5か年の行動計画を策定中である。この計画については、高齢者保健福祉計画、教育ビジョンとあわせて、パブコメや10か所の地域センターで説明会を開催し、意見をお聞きする予定である。

健康づくりに関する調査では、男女間の健康についての意識の違いや、女性のやせ志向、高齢者のやせ問題が浮き彫りになり、特に高齢者はフレイル（虚弱）により健康寿命が短くなることが問題であると分かった。体が弱ることで寝たきりなる等の悪い連鎖をストップするため、まず健康づくりに意識を向けていただけるよう着実に取り組んでいきたい。

#### ・みどり公園課

区立公園は、子どもたちの遊び場や気軽に運動ができる場として、重要な役割を担っていると考えている。

区では、現在、新宿中央公園にて、老朽化に伴い撤去した大型の複合遊具の再設置に取り組んでいる。大人、高齢者向けとしては、西落合2丁目の葛ヶ谷公園の改修に合わせ、地域の意見を聞きながら健康器具の設置を行った。また、バリアフリートイレの設置を計画的に進めるなど、公園のバリアフリー化も推進している。これからも公園を使用される方の意見等を踏まえながら、遊びや健康に寄与する公園づくりを進めていく。

- ・教育調整課

子どもの運動能力について、全国調査の結果では、区内小学校では全国、東京都を上回り、中学校では下回った。それでも中学校では前年度と比較すると上昇傾向にある。教育委員会ではスポーツへの関心と体力の向上を目指して、自ら運動に親しむことができるようスポーツギネス新宿を継続している。集団、個人で取り組める種目を学校ごとに選択し、自ら目標を持って取り組める事業を展開している。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を通して、障害への理解、障害者との共生について学ぶ機会として、ゴールボール、ブラインドサッカーなどを体験する障害者理解教育を推進している。28年度は、ブラインドサッカー体験を小学校で8校、中学校で2校実施した。29年度は障害者スポーツの体験授業を全校で実施する取組を進めている。

- ・関口委員

メキシコでは、地域住民が公園の器具で筋トレ等を行っている。メキシコ人の所得は日本人の5分の1程度であり、有料のスポーツジムに通うと、入会金等を含めると高額になってしまい、皆ができる環境ではない。ただ国民性として運動をすることが好きであるため、朝から晩まで多くの人が参加して、公園にある器具で運動をしている。

## ウ 各報告を受けての自由意見

- ・レクリエーション協会

メキシコでは日本と同じことをしているのか。メキシコ独自のスポーツ振興をしているのか。国民性の違いなどがあるのか？

- ・関口委員

メキシコではスポーツ振興を市や州が行うことはない。お金をかけないでスポーツに参加していくかを考えていることが日本とは異なる。好きな時間に好きな恰好でスポーツをする気軽さやハードルの低さこそ、皆が参加できる要因でもある。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催にあたり、考えすぎないハードルの低さがスポーツ振興にもなると考える契機になればと思う。

- ・中学校PTA協議会

新宿区ではスポーツイベントは多いが、そもそもスポーツをする環境は整っているのか。スポーツをする場、子どもたちが遊べる場所はあるのかの判断やどう作っていくかのビジョンを聞きたい。

- ・金子座長

放課後子どもひろばなど学校で遊べる場所はある、場所の提供はできているが、本当に有効利用しているかが問題と思う。誰が有効利用する手助けをするかの連携が十分になれば、更に環境が整うと思う。

- ・中学校PTA協議会

学校の校庭開放などの場はあるが、手伝い等の保護者の手が必要になり、なかなか子どもも来ず、5～6人程度しかいない場合もある。屋内は体育館等があり十分であるが、屋外ではグラウンド等の環境は整っているのか疑問である。

- ・青少年育成委員会

登録制のサッカー等が利用できる学校や放課後子どもひろばなどでグラウンドを使用している。いかに校庭開放を利用させるかを地域や保護者に考えてもらうのがよいのでは？

- ・子ども家庭課

放課後子どもひろばは小学生であれば利用でき、特に利用に制限はない環境である。また、区で見守りをする人を配置し、晴れていれば屋外、雨であれば屋内など使用できる。サッカー、ドッチボールなど、子どもたちが何をするか決めて遊び、自分達で過ごすひろばとなっている。

- ・レクリエーション協会

環境会議である限り、スポーツ環境の議論は重要であり、皆で考えていく必要がある。

## (5) 各団体の連携について

- ・金子座長

次第4「各団体の連携」について、行政から報告があったが、事業について単体での実施でなく、区全体でできるようPRの場であっても良いと思う。例えば新宿シティウォークについても新宿ハーフマラソンと絡めてもよいのではと思う。

- ・健康政策課

生活習慣病や生活機能の低下を防ぐには一日約8000歩あるくのが良いとされているが、65歳未満の区民の約7割は歩いていないなど、健康無関心層にこそ周知する必要性が見えてきた。資料5の新宿シティウォーク2017など、運動の活動量を増やしてもらうために気軽に歩いてもらう取り組みを行いながら、観光スポットやカロリー消費量を明記したウォーキングマップの作成や缶バッチ等の景品の検討もしている。継続して行政としてできる限り連携について検討し、区民の心理的な環境整理もしていきたいと考えている。また、宝塚大学の学生がデザインした「健康づくりキャラクター」を発信して、親しみやすい健康のマークとしていきたい。

- ・金子座長

新宿シティウォークのスタート地点が新宿中央公園であれば、先程報告のあった公園の遊具も見てもらえるのでは？

- ・みどり公園課

大型遊具の設置は3月を予定しているため、当日は見ることはできない。ただ芝生広場の近くに設置してある健康器具については、見ることや使用することができる。

- ・金子座長

チラシにあるごっくん体操についてはどうか。

- ・健康政策課

ごっくん体操は、誤嚥性肺炎にならないよう、飲込みをしっかりとできるような体操しようというもので現在検討しているところである。飲込みを良くするためには、食事の仕方、口腔ケアや視線も大事だが、呑み込む筋肉の作り方が重要であり、ごっくん体操は、喉の筋肉だけでなく 肩、口、首、頬の体操をして筋力を強化するためのものと考えている。今年度中にはこれらを親しみやすくするための新しい体操を考え、推進できるよう検討している。健康部だけでなく、地域との連携を図り、周知できるよう努めていきたい。

- ・金子座長

ごっくん体操等の普及方法だが、まずいきいき体操のサポーターに普及しても良いのでは？ごっくん体操での口の運動を取り入れて、各地区で行ってもらうことは効果的と思う。

- ・健康政策課

健康部と福祉部で連携できないか、検討する。

- ・レクリエーション協会

新宿シティウォークの参加条件である、区内在住、在勤、在学という枠があるが、他区民の参加は難しいのか。

- ・健康政策課

参加人数の問題もあるが、原則区民優先で行っている。委員の意見を踏まえ運営側と検討する。

- ・青少年育成委員会

区の事業であれば区民優先で良いと思う。他区民の参加を可能にするのであれば、他区との合同の事業で行うこともできる。

## (6) その他 意見交換

- ・体育協会

ウォーキングについて、体協では新宿御苑を休園日に使用させてほしいと要望がある。スポーツ環境については、ローラースケートなどは区内では競技ができない所がある。

- ・レクリエーション協会

新宿区のスポーツ環境については、重要テーマとして今後も検討してほしい。

- ・生涯学習スポーツ課

資料6について、障害者スポーツ体験や、スポセンまつりでも実施するボッチャは準備や運営などスポーツ推進委員に協力いただき実施する。パラリンピック1000日前に向けたイベントとして行う「パラスポーツチャレンジIN新宿」では、よしもと興業の芸人と一緒にスポーツをするイベントとして、ウィルチェアーラグビーや車椅子バスケットボール、義足体験を行う予定である。

## 4 行政からの連絡について

第10回スポーツ環境会議は実施日程及び内容が未定のため、決定次第お知らせする。